

徳島大学病院の集中治療室（ICU）に、肺炎から意識障害になった患者さんが搬送されてきました。全身蒼白で意識はもうろうとし、呼吸が浅くて速く、脈拍は微弱で、敗血症ショックと呼ばれる病態でした。腎機能障害や肝機能障害、血液凝固障害も併発していました。救命には一刻の猶予も許されない



徳島大学病院ER・災害医療診療部

大藤 純 特任教授

状態でした。

直ちに集中治療専従医の指示の下、輸液と昇圧薬によるショックの治療、苦痛を和らげる鎮痛・鎮静管理、呼吸不全に対する人工呼吸管理を開始し、同時に敗血症の原因となった菌種を特定し、適切な抗菌薬を選択しました。血液透析を含む電解質・体液管理、血液凝固障害の治療、体力の消耗を防ぐ代謝・栄養管理といった集中治療を継続しました。患者さんの容体は回復し、1週間後には無事にICUを出しました。

徳島大学病院のICUは、救急集中治療の専門医が24時間専

従で診療している数少ない施設です。重症の内科系疾患や広範囲熱傷、脳卒中、中毒などさまざまな病態の患者さんの治療をしています。冒頭で紹介したように患者さんが多臓器に障害を持っている場合、各臓器の専門家だけでは対応できません。専門医はあらゆる疾患の総合的な知識と経験を持ち、各診療科の医師と連携して刻一刻と変わる患者さんの全身状態に対応し、治療方針を決定するマネジメント能力が求められます。

救急集中治療の24時間

専門医が治療方針を決定することで重症患者の予後が改善することは多くの臨床研究で明らかとなっており、社会的ニーズは高まっています。また、高度な集中治療を実践するためにはICU専従の専門看護師、臨床工学士、薬剤師の協力和高度な医療機器を備えたICUが不可欠です。

徳島大学病院救急集中治療部は県立中央病院と連携して、寄付講座「ER・災害医療診療部」を開設し、県下の救急・集中治療のレベルアップと人材育成にも力を入れています。人工呼吸や心肺蘇生の講習、救急搬送の事後検証、院内トリアージ訓練、化学災害を想定した除染訓練など幅広く活動しています。今後も徳島県の救急・集中治療分野が発展し、より多くの重症患者さんが救われることを願ってやみません。